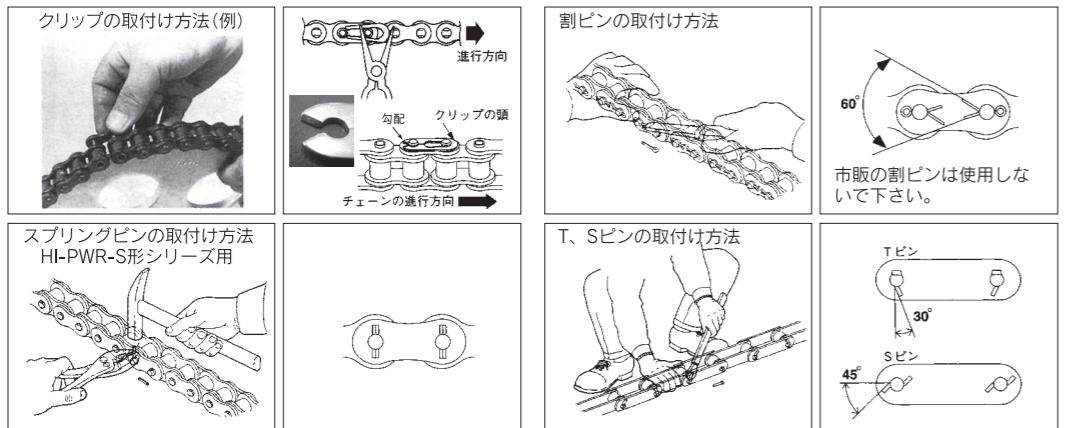




### (2)切り離し、連結

- a. チェーンの切り離しは、必ず継手部分で行って下さい。継手部分がないチェーンはお求めの販売店に依頼して下さい。
- b. チェーンの取付け方と取付けた状態を参考に、下図の方法で正しく行って下さい。
  - ・継手のピンにオイルまたはグリースを十分に塗布して下さい。シールチェーンの場合はシールリングにも塗布して下さい。
  - ・継手プレートを継手ピンに挿入します。このとき、継手プレートの刻印面が外側に向くようにして下さい。
  - ・スムーズに割ピン、クリップを挿入するためピン孔、クリップ溝が継手外プレート面から出ていることを確認して下さい。
  - ・しまりばね(軽圧入)継手のプレートの場合は、チェーンを固定しピン外径が入る銅管または凹型ブロックを利用しハンマーで叩いて入れて下さい。
  - ・クリップを装着する際は、クリップの頭(割れ目のない方)がチェーンの進行方向に向くように取り付けて下さい。シールチェーンですきまばめ(遊合)継手の場合は、継手プレートを押さえながらクリップを装着してください。このとき、クリップの先端の勾配が見えるように(チェーン外側に向くように)装着しますと、作業がスムーズになります。



- c. 連結後の確認をして下さい。
  - ・継手および継手の両側のリンクが、スムーズに屈曲するか確認して下さい。(シールチェーンの場合は、屈曲が少し硬くなっています。)
  - ・シールチェーンのOリングが間違いなく装着されているか確認して下さい。

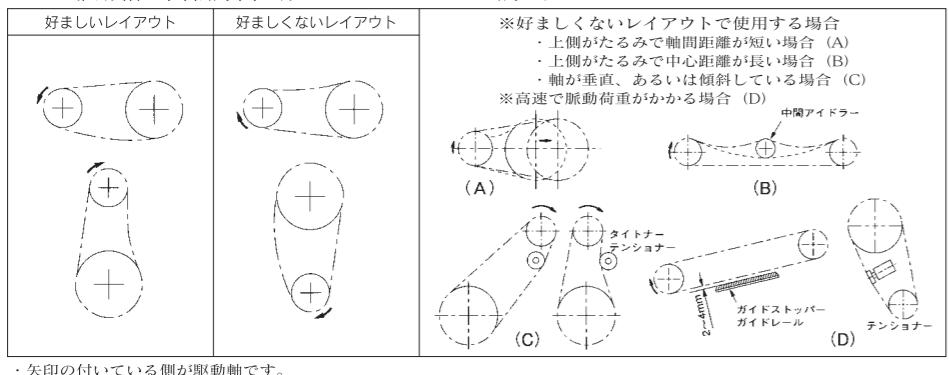
#### ⚠ ご注意 一部交換・再使用・再加工の禁止

- チェーンの一部交換や一度使用したチェーンの部品、または継手部品の再使用はチェーンの強度が著しく低下し切損や破壊の原因となります。絶対にしないで下さい。
- またほとんどのチェーンは熱処理されています。電気めつき・溶接・焼なまし、継手プレートの孔・ピン径の加工なども、切損や破壊の原因となりますので絶対にしないで下さい。
- 誤って上記の事項を行った場合は、すべて新品に交換して下さい。

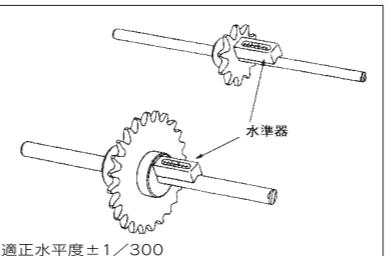
### (3)レイアウト調整

伝動効率の低下またはチェーン・スプロケットのトラブルを防止するため、取付ける装置のレイアウト調整を下記のようにして下さい。

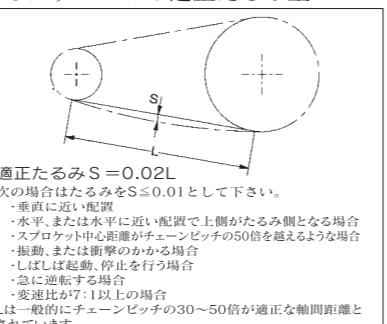
#### a. 駆動軸と回転方向(チェーンのたるみ量調整)



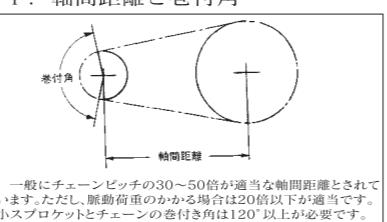
#### b. 軸の水平度調整



#### e. チェーンの適正たるみ量



#### f. 軸間距離と巻付角



#### g. チェーンたるみ量の調整

- a. 項の(A)、(B)、(C)、(D)の方法で適正たるみ量に調整して下さい。

## 3.運転(点検)・メンテナンス

### (1)運転(点検)

- a. 運転前に下記の事項を確認して下さい。

継手連結部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に結合されているか、また部品に異常がないか確認して下さい。</li> <li>・届曲がスムーズか確認して下さい。(シールチェーンの場合は、届曲が少し硬くなっています。)</li> </ul>
チェーン スプロケット アタッチメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有害な傷・錆がないか、また損耗がないか確認して下さい。</li> <li>・たるみ量が適正か確認して下さい。</li> <li>・ピンが回転していないか確認して下さい。</li> <li>・ローラがスムーズに回転するか確認して下さい。</li> <li>・スプロケットの歯にチェーンが噛み合っているか確認して下さい。</li> </ul>
干渉物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェーンに干渉している物、周間に干渉したり、安全カバーに干渉していないか、また飛散したりする物が置いてないか確認して下さい。</li> </ul>
潤滑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給油量は適正か確認して下さい。(給油量は潤滑形式の表を参照して下さい。)</li> </ul>
駆動・従動軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両軸の水平度・平行度が適正か確認して下さい。</li> <li>・スプロケットの心ずれが許容範囲以内か確認して下さい。</li> </ul>
周辺装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺装置が正常に取付けられているか確認して下さい。</li> </ul>

- b. a項を確認、調整し安全カバーを取付けた後、動力を入れ運転して下さい。

・予期せぬ破断によってチェーンが投げ出されることがあります。運転中は回転方向に入らないで下さい。



### ご注意

- 干渉物**
  - 干渉物があった場合、切損・破壊による飛散物などで受傷する恐れがあります。必ず干渉物を除去して下さい。
- 異音  
傷・錆**
  - 運転中の異音はトラブルの兆候と考えられます。ただちにスイッチを切り、原因を調べて下さい。
  - チェーンの外観に有害な傷・錆があった場合、切傷・破壊し受傷の原因となることがあります。必ず有毒な傷・錆がないか確認して下さい。
- スプロケット**
  - スプロケットに損耗があった場合、スプロケットの破壊、チェーンがスプロケットに乗り上げ切損などの受傷の恐れがあります。必ず損耗がないか確認して下さい。
- 危険回避の装置**
  - 危険防止具を取付けて下さい。
  - 飛散物による受傷を避けるため、危険防止具(安全カバー、落下防止ネットなど)を取付けて下さい。
  - 緊急停止装置を取付けて下さい。
  - 予期せぬ過負荷による受傷を避けるため、負荷制御装置やブレーキなどの緊急停止装置を取付けて下さい。

### (2)メンテナンス

#### a. チェーンの張り調整

- ・チェーンのたるみ量が適正值を超えた場合、前述レイアウト調整方法で行って下さい。
- ・駆動・従動スプロケットの心ずれ防止のため、張り調整は2人で行って下さい。
- ・コンベヤチェーンの切り詰めは張りの調整範囲限界に近くなった場合、早めに行って下さい。

#### b. チェーンの交換時期

- ・チェーンの外観に有害な傷・錆があった場合、交換して下さい。
- ・チェーンの伸びが限界近くに達した場合、速やかに交換して下さい。

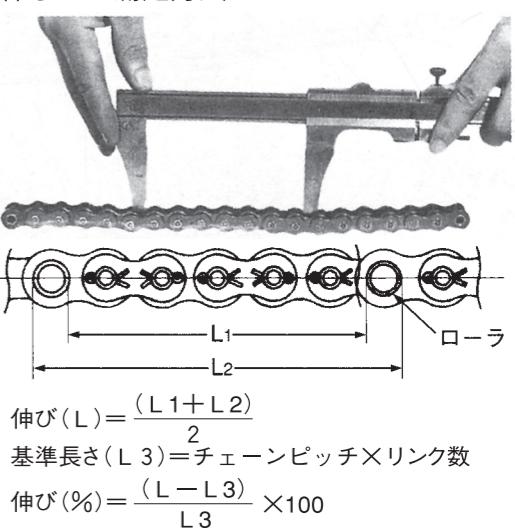
#### チェーン交換の目安伸び量

大スプロケット 歯数	普通チェーン	シールチェーン 焼結ブシローラチェーン
40以下	2.0%	1.0%
40~60	1.5	1.0
61~80	1.2	1.0
81~100	1.0	1.0
101以上	0.8	0.8

上記伸び量はテークアップ可能である場合、もしくはたるみ調整装置のある場合です。

軸間固定でたるみ調整装置がない場合は、0.5~0.7%を目安にして下さい。

#### 伸び量の測定方法



・チェーンの交換時期はスプロケットの交換時期でもあります。そのまま使用した場合、チェーンの切損やさまざまなトラブルの原因となることがあります。チェーンとスプロケットは同時に交換して下さい。